資料６

排水浄化センター内における薬品漏洩事故について（報告）

排水浄化センターは、最終処分場からの浸出水（処分場内に降った雨がごみ層を浸透し、集水管により集められた水）を処理する排水処理施設です。処理した水は滅菌後、河川に放流しています。また、春先から夏場にかけては、蓮田にも利用されています。

今回、処理工程で使用する薬品（25％苛性ソーダ）の配管が、強風であおられたことにより、配管が曲がっている部分に亀裂が入り、薬品が防液堤内等に漏洩しました。職員が日常点検時に発見し、亀裂部品を直ちに交換しました。

１　発生日時

2024年2月27日（火）8時30分

２　発生場所

町田市下小山田町3239番地1　町田市排水浄化センター内

３　漏洩した薬品と分量・性状

苛性ソーダ水溶液（アルカリ性）25％　130リットル

４　漏洩の状況

配管亀裂箇所から、防液堤内及び防液堤背後の建物の間（隙間。底部はコンクリート）に漏洩。運営管理業務受託者が施設の日常目視点検中に発見し、市に報告されました。

５　講じた措置

①亀裂部品を交換。

②放流先河川及び蓮田の現場確認（当日及び翌日）

敷地外への漏洩（ろうえい）は確認されておらず、外部への影響はありませんでしたが、念のため、放流先河川の確認を実施しました。植物及び生物への影響は確認されませんでした。

③回収・洗浄作業

可能な限り原液を回収後、中和のためクエン酸（酸性）を散布しました。水道水を流し、ｐＨを確認しながらデッキブラシを用いて、防液堤内及び防液堤背後の建物との間の隙間の清掃作業を実施しました。回収した溶液はポリタンク（9 本分）に回収しました。

④土壌調査の実施

防液堤の周辺の土壌調査（調査会社に委託）を実施しました。調査の結果、周辺の土壌に苛性ソーダ漏洩の影響は確認されませんでした。

苛性ソーダタンク（右側）の外観

土壌調査（土壌採取）の様子